

阿波市立市場中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- カリキュラムマネジメントを充実させた「確かな学力」の育成
- ・分かりやすい授業の展開
- ・生徒の進路保障
- ・基礎基本の徹底
- ・PDCAサイクルを生かした授業改善
- ・研修の充実と研究授業の実施
- ・主体的に学ぶ意欲の向上

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員
- 委員 校長・教頭・教務主任・研修主任
1年担当・2年担当・3年担当

○次の(1)～(3)をバランスよく取り
組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎となる知識・技能において定着が見られる生徒が多い。理解が進んでいる内容に関しては繰り返し学習をして考えることができている。 ●学力が定着している生徒と定着が十分でない生徒の格差があり、二極化の傾向にある。	・自らが成長することの喜びを実感し、学ぶことの効果や価値に気づき、主体的に基礎・基本の知識や技能を身に付けたりすることができる。	・朝の読書、新聞コラムの視写やセミナー学習を継続して実施する。 ・自主学習ノート、授業ノートを工夫し、学んだことを振り返りながら繰り返し学習することで基礎・基本的な学力を定着させる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学んだ内容等をノートやふせんに自分の言葉で書くことができる。また、書いた内容をスモールグループで説明することができる。 ●今まで学習したことを活用して、より深い思考につなげたり、筋道を立てて、表現できたりする生徒は少ない。	・言語活動を通して思考し、互いの立場や考えを尊重して話し合い、自分の考えをまとめることができる。 ・仲間と協力して学び合い、自分の考えと仲間の考えの共通点や相違点から判断し、よりよい課題解決の方法や行動が選択できる。	・学習内容を説明させたり、ノートにまとめさせたりする。 ・生徒同士が学び合う時間や、自分の考えをまとめ、発表し合う時間を多くとる。 ・授業力を高めるため、教科を越えて授業公開を行い、授業力向上研修を実施する。 ・ICTを有効に活用し、生徒の理解や表現力をより深める。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業態度はまじめで、毎日の宿題や家庭学習を忘れずに提出できる生徒が多い。 ●家庭での学習習慣が十分に定着していない。	・様々なことに挑戦し、成功体験や失敗体験を繰り返しながら学んでいくことができる。 ・自己受容感、自己肯定感、自己責任感を持ち、自ら進んで学ぶことができる。	・プロセス評価を重視し、生徒が自ら考えて行動できるように支援する。 ・スモールステップでの指導により、生徒の自己肯定感や自信を育む。 ・課題設定の工夫や家庭学習のモデルとなる生徒の取組を全体に共有する。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

